



天文資料

2018年 12月号

平成30年度 第9号 (12月号)

平成30年11月28日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



<天頂は秋の星座が占めるも、東の空から冬の星座が続々と！>

天高く駆けていたペガサス座も西の空へ傾き、アンドロメダ座とペルセウス座が天頂付近を占めるようになってきました。化けクジラ(くじら座)のいけにえとして海岸の岩に鎖でつながれたアンドロメダ姫を、天馬ペガサスに乗った勇者ペルセウスが救い、その後、二人は結婚しエチオピアの国を豊かに治めるという神話はとも有名ですね。夜はすっかり冬の装いですが、ハッピーエンドの神話を聞くと、ほっこりした心で夜空を見上げられそうです。



★ ウィルタネン彗星

国立天文台 HP より

その東側に目を向けると、秋の静かな星空を押しよせるような勢いで華やかな冬の星座が続々と昇ってきます。

その先頭を切ってぎよしゃ座とおうし座が登場しますが、ぎよしゃ座は戦車を発明したアテネの王エリクトニウスの姿、おうし座は大神ゼウスが変身した真っ白な牡牛が駆けている姿ですので、昇ってくる勢いもあるわけです。そのあとから冬空の真打オリオン座が登場しますが、それは次号に取っておきましょう。

この空で、ウィルタネン周期彗星が明るくなっています。12月上旬から中旬にかけて、くじら座からおうし座に向かって移動していきますが、肉眼で見えるほど明るくなると予想されていますので、ぜひ見つけてください。

<12月から1月の見どころをご紹介します>

1月の早い時期に注目の天文現象がありますので、12月分と併せてご紹介いたします。

★ふたご座流星群(12月13日～15日)

12月14日の夜9時頃に出現のピークが予想されています。この時間、ふたご座は東側のやや高い空にありますのでとても見やすいかと思えます。1時間に40個ほど飛ぶのではないかと予想されています。月明かりは気にしないで。



★しぶんぎ(りゅう座)流星群(1月4日)

年明けの1月4日、日が昇る前の暗い時間帯が見ごろになるでしょう。「しぶんぎ」の名前は、現在、りゅう座(イオタ)星があるあたりの星々をつないで「しぶんぎ座」と呼んでいた頃の名残です。この流星群の特徴は、ピーク時間をはさんで数時間しか活動しないことです。

♪部分日食(1月6日)

月が太陽の前を通過するとき、太陽の一部を隠します。佐世保市での時間は次のとおりです。

食の始まり 8:38

食の最大 9:46(食分0.305)

食の終わり 11:01

目を傷めないよう減光対策をしっかりと!